戸籍の振り仮名における一般的な読み方とは？

【一般的な読み方の基本的な考え方】

氏名として用いられている漢字の音訓、字義に一定の関連性を有するものが基本で、漢和辞典などの一般の辞典に掲載されている読み方については幅広く認められます。

なお、日本における命名文化や名乗り訓が創造される慣習、名に名乗り訓が多用されてきた歴史的経緯も念頭に入れ、社会的に受容され、慣用されているかも含めての判断となります。

【一般の読み方として認められる読み方】

1　辞典に記載されている読み方

桜（サクラ）、 太郎（タロウ）、 花子（ハナコ）

2　その漢字の音訓の一部分を当てた読み方

心愛（ココア［ココロ＋アイ］）、 桜良（サラ［サクラ＋ラ］）

3　熟字訓及びそれに準ずる読み方

飛鳥（アスカ）、 乙女（オトメ）、 五月（サツキ）、 清水（シミズ）、 伊達（ダテ）
日向（ヒナタ）、 吹雪（フブキ）、 紅葉（モミジ）、 弥生（ヤヨイ）、 百合（ユリ）

4　置き字を用いる読み方　※置き字＝直接読まないもの

美空（ソラ）、 彩夢（ユメ）

【認められない読み方】

1　漢字の意味や読み方との関連性を認められない読み方

「太郎」を『ジョージ』や『マイケル』と読ませる

2　漢字の元の読み方に、明らかに異なる別の単語を付け加え、漢字との関連性を認められなくなった読み方

「健」を『ケンイチロウ』や『ケンサマ』と読ませる

3　漢字の持つ意味とは反対の意味となる読み方や誤解を生じる読み方

「高」を『ヒクシ』、「鈴木」を『サトウ』、「太郎」を「ジロウ」と読ませる

4　差別的・卑わい的など、音で表したときに不快感を覚える読み方

5　反社会的など、明らかに人の名前としてふさわしくない読み方